

令和5年度

評価・評定の資料

～各教科のシラバス・年間指導計画～

1年

中央区立銀座中学校

1 年 ・ 目 次

教育活動と 評価・評定	1 ~ 4
----------------	-------	-------

各教科のシラバス・年間指導計画

国 語	5 ~ 6
社 会	7 ~ 9
数 学	10 ~ 12
理 科	13 ~ 15
英 語	16 ~ 20
音 楽	21 ~ 22
美 術	23 ~ 24
保健体育	25 ~ 26
技 術	27 ~ 29
家 庭	30 ~ 31

1 令和5年度銀座中学校の教育活動について

中学校では、大きく分けて以下の4つの活動を通して様々なことを学んでいきます。中学校の授業は1時間(1校時)が50分で、週5日週29時間の授業があります。1年間で29時間×35週分=1015時間の授業となっています。本校では授業確保のため、各学年の総合学習は原則として週に1時間(年間35時間)とし、それ以外はまとめどりを行います。

(1) 教科

中学校では、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語(英語)の9教科を学習します。各教科にはそれぞれの教科目標があり、現在の学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の育成を重視しています。

(2) 特別の教科「道徳」

豊かな心を持ち、人間としての生き方を自覚し、未来を拓く主体性のある人間となるためには、その基盤としての道徳性を育てていくことが必要です。主に週1時間の道徳の時間に学びますが、一人一人が自分を見つめ、自分の感じたことをもとに自分の意見や考えを深めていくことが大切です。

(3) 特別活動

学級活動、生徒会活動、学校行事という3つの活動の場で学びます。集団活動を通して互いに切磋琢磨し、個性を伸ばし、社会の一員としての自覚を持ち、自主的・実践的な態度を身に付け、社会の中で自己を生かしていける力を養うことを目指しています。

(4) 総合的な学習の時間

この時間で大切なのは、一人一人がそれぞれの課題を持ち、教科や道徳、特別活動を通して身に付けた力を総合的に働かせること、この総合的な学習の時間で身に付いた力を各教科や道徳、特別活動の時間で生かしていくことです。この時間のねらいは次の2つです。

- ①自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を育てる。
- ②学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

区 分	必修教科の授業時数									道徳の授業時数	特別活動の授業時数	総合的な学習の授業時数	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語				
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015

2 通知表について

(1) 評価をする期間と通知表配布日

① 1、2年生

学期ごとに評価をしていますが、**3学期に記載される評価は通年の評価**となります

	評価をする期間	通知表配布日
1学期	4月から7月の学習の評価	1学期終業式（7月20日）
2学期	9月から12月の学習の評価	2学期終業式（12月25日）
3学期	1学期から3学期の通年の評価	3学期修了式（3月25日）

② 3年生

学期ごとに評価をしていますが、**3年生の4月から12月の学習の観点の評定が2学期の評価**となります。これが進路の資料となります。**3学期に記載される評価は通年の評価**となります

	評価をする期間	通知表配布日
1学期	4月から7月の学習の評価	1学期終業式（7月20日）
2学期	4月から12月の学習の評価	2学期終業式（12月25日）
3学期	1学期から3学期の通年の評価	3学期卒業式（3月19日）

(2) 評価・評定の出し方

① 評価の観点について

全ての教科以下の3つの観点で評価しています。観点によって重み付けはありません。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 100%	② 100%	③ 100%

② 学習状況の評価(観点別評価)について

評価とは、各教科の観点別の成績のことです。各教科とも3つの観点で、それぞれ基準が決められており、その中での達成率でA、B、Cの評価が決まります。本校では、次のように定めています。

A：十分満足できると判断されるもの	達成率が80%以上
B：おおむね満足できると判断されるもの	達成率が50%以上80%未満
C：努力を要すると判断されるもの	達成率が50%未満

③評定について

評定とは、各教科の5段階の成績のことです。教科の各観点の達成率を総合したもので、観点別学習状況の評価を総括し、評定が決まります。本校の評定は、次のように定めています。

5：特に高い程度のもの	達成率が90%以上
4：十分満足できると判断されるもの	達成率が80%以上90%未満
3：おおむね満足できると判断されるもの	達成率が50%以上80%未満
2：努力を要すると判断されるもの	達成率が20%以上50%未満
1：一層努力を要すると判断されるもの	達成率が20%未満

④観点別評価と評定の関係

観点1	観点2	観点3	評定の可能性
評価	評価	評価	
A	A	A	5 4
A	A	B	5 4 3
A	B	B	4 3
B	B	B	3
A	B	C	3 2
B	B	C	3 2
A	C	C	3 2
B	C	C	3 2 1
C	C	C	2 1

⑤ その他

◇総合的な学習の時間の記録

学習活動の内容、成果を文章で記入します。

◇特別の教科「道徳」の評価

授業における取組、変容を文章で記入します。

◇特別活動の記録

生徒会活動（生徒会・専門委員会）、学級活動（学級内の係等）、部活動、学校行事その他（行事の実行委員等の名称や、表彰された実績等）をそれぞれ記入します。

◇出欠席の記録

4月6日から3月25日までの出欠席の状況を記入します。

◇担任より

担任による総合所見を文章で記入します。

⑥ 評価・評定の材料について

各教科の評価は、定期考査だけで行っているわけではありません。日頃の授業での学習活動、宿題などの提出物等で、一人一人の取組を評価します。また実技教科では、実技テストや作品も重要な評価材料になります。各教科のシラバスを見て確認しましょう。

以下の「**学力向上の秘訣**」を参考にして 令和5年度の学習が充実したものになるように頑張りましょう。

学力向上の秘訣＝基本的生活習慣の定着が土台です

- [1] 落ち着いて話を聴く姿勢を大切にしましょう(合わせて読むことも情報を得る手段です)。
- [2] 提出物の期限を守り、必ず出すようにしましょう(宿題も含め、日頃の頑張りの評価です)。
- [3] 時間を守り、家庭で学習する時間を決めましょう(メリハリつけて有効に使いましょう)。

教 科	国 語	学 年	1 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

国語の諸活動をとって、発表力や読解力、コミュニケーションやプレゼンテーション能力などについて理解し、その能力の獲得や定着を図っていく。また、を意識し古典や言語活動の学習を重視し、日本の伝統文化や日本語に興味、関心を持って取り組める姿勢の育成を目指していく。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

- ・国語 1 (光村図書) 新・国語の便覧 (正進社) よくわかる国語 1 (明治図書) 積み上げ (明治図書)
- ・使用教室-各教室、国語教室、図書室 ・指導形態-渡辺・永富 (TT及び少人数) 前村 (単独)
- ・年間 20 時間程度の書写活動 (硬筆・篆刻を含む) を行う。

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の言語事項・古典文学・メディアリテラシーについて、その特質を理解し適切に使っている。	◇定期考査 ◇漢字テスト ◇宿題・ノート等の提出物 ◇書写作品等の提出物 ◇調べ学習等の課題 ◇文法テスト
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、文章や資料を読み解き、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	◇定期考査 ◇スピーチ ◇聞き取りテスト・ディベート ◇授業態度 (発言を含む) ◇提出物の内容
主体的に学習に取り組む態度	授業を大切に、言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えまとめたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。	◇授業へ積極的に取り組む態度 (話し合い活動、発言等) ◇授業のふり返し◇暗誦テスト ◇調べ学習等の課題 ◇宿題・ノート等の提出物

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業でノートをしっかり考えて書くこと。
- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、自分の考えを持つこと。
- 発言や発表に進んで参加すること。
- 提出物は期限を守って提出すること。
- 定期考査の前には、教科書を繰り返し読むことを基本として、自分のノートと照らし合わせ、授業の流れを確認する学習を行う。ワーク等、問題集を繰り返し学習する。

【家庭学習の進め方】

- ①一番大切なことは、学校の授業だと理解する。特に、心情把握は、根拠に基づいたものになるので、授業中での解説などの話をまとめてメモするなどの工夫を授業で行っておくこと。
- ②予習は、教科書を読んだり、ワークをやってみたりする。また、調べ学習を進める。復習は授業内容の確認をする。ノートを見ながら、どのようにして読解が進められたかを確認し、ワークを進める。
- ③社会的な事象に興味を持ち、その中で持続可能な開発ゴールを考えること。
- ④積極的に読書する。また、資料やネット売買契約の同意書に目を通す練習をすると力がつく。また、新聞のコラムなどを読むことからはじめ、それが定着したら、そのコラムに対して、自分の考えをまとめ、短作文を書く練習をするとさらによい。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

マトリックス⑦知識技能×課題解決

- A 「情報の集め方を知ろう」インターネットを用いた情報を集め、発表する。 [知識・技能]
- B 「竹取物語」古典文学を深く読み解き、現代文との相違やつながりについて考えを広げ深める。 [思・判・表]
- C 「いろは歌・冒頭文」いろは歌、古典作品冒頭文の暗誦をし、伝統文化について理解を深める。 [姿勢]

【校内研究に関わる授業の進め方】

1 単位時間の中に、3 観点を評価できる指導をする。

【年間指導計画（国語140時間）】

月	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	35+	《1》学びをひらく 「野原はうたう」 「シンシュン」 漢字1 言葉1 季節のしおり	詩を朗読し情景をとらえる。朗読の練習・発表 行動描写から心情をとらえる。話し言葉書き言葉部首 毛筆・硬筆	作品を読み気に入った詩を選び、工夫しながら朗読して読む。 少年の心情を考え、変化をとらえる。 話し言葉と書き言葉の違いについて理解する。
5		学習基盤B 《6》いにしへの心にふれる 「いろは歌」C	「いろは歌」を音読し、口語訳と比べ読みする。 歴史的仮名遣いに注意して読む 漢文、故事成語	漢字に興味を持って取り組む。 文章古典に興味をもち、音読する。 物語の文脈に即した意味を的確に捉える 古典特有のリズムを味わい、理解する 独特の言い回しに注意しながら漢文を音読する。
6		「古典の世界」 「蓬莱の玉の枝」 「今に生きる言葉」 《2》新しい視点へ 「ダイコンは大きな根？」 「ちょっと立ち止まって」 「情報の集め方を知ろう」A	段落の役割に着目して読む 文章と図の関連や段落と段落の役割を考えて読む 情報の集め方	基本的な筆使い 筆順、字形 字形を整えて書く。に述べられているものの見方や考え方を理解する 目的に応じた情報の集め方を知る 必要な情報を取捨選択する
7		好きなものを紹介しよう 《3》言葉をつなぐ 「詩の世界」 「比喻で広がる言葉の世界」 「言葉を集めよう」 文法への扉 季節のしおり ◎読書生活を豊かに 書写「硬筆」	音読、詩の表現 伝わる表現 文章の構成 言葉のまとめり 本の世界を広げる	詩に親しみ、詩の表現について理解する 観点を立てて言葉を集め、表現する 構成や事例の述べ方について理解する 言葉の単位について理解する さまざまな作品を読み、ものの見方や考え方を広げる
9	4 5	◎弁論作文 《4》つながりの中で 「星の花が降るころに」 「大人になれなかった弟たちに……」 漢字2 言葉2 「聞き手上手になろう」 「項目を立てて書こう」 [推敲の] 読み手の立場に立つ	主張文を書く 弁論発表会 情景や心情の変化をとらえ、話し合う。 漢字の音訓 指示する語句と接続する語句 記録の文章 図表の役割 レポート作成	構成を工夫しながら弁論作文を書く。 根拠を明らかにし、自分の意見を伝える。 情景や心情の変化を読み取る。作者の思いをとらえる。登場人物の行動や情景描写を読み取る。 漢字の音訓について理解する 指示する語句や接続する語句の働きについて理解する。
10				
11				全体の論理展開を捉え、図表の役割等について理解する
12		◎書写 書き初め	毛筆による字形・構成	
1	40	《5》筋道を立てて 「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」 話題や方向を捉えて話し合おう 根拠を示して説明しようESD	事実と意見を読み分ける グループ・ディスカッション 鑑賞文を書く 教室ディベート	文章を読み、目的に応じて要約をしたり要旨をとらえたりする。 話し合いを通して自分の考えを広げる。 観点を立てて鑑賞し、読み手に分かりやすい鑑賞文を書く
2		《7》価値を見いだす 『不便』の価値を見つめ直す 《8》自分を見つめる 「少年の日の思い出」 随筆二編 言葉3 漢字3 印象深く思いを伝えよう 文法への扉3	鑑賞文を書く 構成、登場人物の生き方 心情の移り変わり 音読・随筆の表現 現技法 漢字の成り立ち 新入生へメッセージを書く 単語の性質	詩の表現について理解する 場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを読み取る。 漢字の成り立ちを理解する。 表現の工夫、分かりやすく書く 単語の分類について理解する。
3		一年間の学びを振り返ろう ◎百人一首C	詩の表現技法 百人一首 和歌について	詩の表現技法について理解する 古典の興味を深める

教科	社会科	学年	1年	【令和5年度】
----	-----	----	----	---------

【教科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

- ◇地理教科書（東京書籍）、地図帳（帝国書院）、ワーク（明治図書、バラで配付）
中学白地図世界（浜島書店）
- ◇歴史教科書（東京書籍）、資料集（浜島書店）、ワーク（明治図書、バラで配付）
- ◇共通：中央区社会科副読本「伝統と文化の街」

- ◇各教室・社会科教室 ◇年間105時間を、おおむね60時間を地理、45時間を歴史に分ける。
- ◇基本的に、阪尾が地理で、週2時間を少人数授業と一斉授業で行う。名取が歴史で、週1時間を少人数授業で行う。進度に応じて、一斉授業を行う。

【授業の進め方と学習のポイント】

- ① 日頃から忘れ物をせず、宿題などの提出物は、必ず提出期限を守る。
- ② 授業は受け身でなく、問いかけに反応したり、発言や、話し合いなど積極的に参加する。重要事項はその場で覚える。・・・【記憶の第1段階】
- ③ 板書・スライドを正確に丁寧にプリントに写す（チョークやスライドの文字の色を工夫するとよい）。板書・スライドだけでなく、先生の話の中からポイントや補足について必要に応じてメモをとる。
- ④ 社会科として、疑問を持ったり、原因や影響などについて、自分の考えをまとめる。
- ⑤ 地図や資料を読み取り、必要に応じて作成してみる。

【家庭学習の進め方】

- ① 日頃から新聞やテレビ番組などでニュースに親しむ。特に地理ではニュースで出た地名を地図帳で調べる習慣を付けると良い。
- ② その日のうちに5～10分でも授業の復習をする。宿題があればまず先に済ませる。
Ⅰ、学習した箇所の教科書を読んでもみる。
Ⅱ、授業で学習した箇所のプリントを見直す。・・・【記憶の第2段階】
Ⅲ、ワークの問題(バラで配付)を解き、間違えたところをプリント等を見て復習する。
また、わからない語句を調べたり、学習した語句をもう一度ノートに書く。
- ③ 宿題などでやった問題は、答え合わせをしっかりと行い、特に間違えた箇所をはっきりさせる。（できなかつた、間違えた部分は消さずに赤で直す）
- ④ テスト前は、上記①②③をさらに繰り返し、特にワークを繰り返し学習して覚える。
・・・【記憶の第3段階】
- ⑤ 自主的な学習・発展的な学習として、自分で地図や年表等を作成すると良い。

【評価の観点と資料】

観 点	評 価 規 準	評 価 資 料
知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	◇定期考査(主に基本的な知識や資料問題) ◇小テスト ◇調べ学習等の課題 ◇宿題・ノート等提出物
思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	◇定期考査(主に論述問題) ◇調べ学習等の課題 ◇宿題・ノート等提出物
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。また深い学びを通して、我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さを自覚する。	◇授業へ積極的に取り組む態度(発言内容や話し合い活動、発表等) ◇授業の振り返り ◇ニューステスト ◇調べ学習等の課題 ◇宿題・ノート等提出物

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス③言語能力×主体的に学習に取り組む態度

- A 地理第3編第2章2節 ヨーロッパ州における課題である国どうしの統合による変化について調べ、調べたことを相手にわかりやすく表現するを身に付ける。
 B 歴史第2章3節「古代国家の歩みと東アジア世界」において、自分たちが学習してきた課題を振り返り、次の単元に学習したことを活かそうとする。

【年間指導計画（地理的分野：年間65時間）】

月	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月	6時間	1編 世界と日本の姿 1章 世界の姿	(授業の約束事等) ◇地球のすがた・地球儀と世界地図・世界の国々と地域区分	(1年間の学習方法を知る) ◇世界を地理的に認識するための座標軸として、地球儀や世界地図を活用して、大陸と海洋の形状や分布を取り上げ、地球規模での位置関係をとらえるための知識と技能を身に付ける。
5月	9時間	2章 日本の姿	◇日本の位置と領域・時差・都道府県の区分	◇日本の国土の位置及び領域の特色と変化を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観する。
6月	8時間	2編世界のさまざまな地域 1章世界各地の人々の生活と環境	◇寒い地域・温暖な地域・山・低い土地などの生活・宗教	◇地域で異なる自然環境の違いを写真や映像資料、雨温図、統計資料からとらえる。
7月	4時間	3編 1章 地域調査の手法	◇地形図の読図や地域調査の手法	◇地形図の読図を通して、地域的特色を理解する。
9月・10月	14時間	3章 世界の諸地域 1節 アジア州	◇強まるアジアとの結びつき	◇「経済の成長」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究する
11月	5時間	2節 ヨーロッパ州 学習基盤A	◇急速な都市の成長と変化	◇「国家間の統合による変化」にする学習テーマを設定し、意欲的に追究する。
12月	5時間	3節 アフリカ州	◇国どうしの統合による変化	◇「特定の生産品に頼る生活からの変化」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究する。
1月	5時間	4節 北アメリカ州	◇特定の生産品にたよる生活からの変化	◇「アメリカ合衆国を中心とした産業の発達」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究する
2月	5時間	5節 南アメリカ州	◇盛んな農業や工業の特色	◇「開発の進展と環境問題」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究する。
3月	4時間	6節 オセアニア州	◇開発の進展と環境問題	◇「アジア州との結びつき」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究する。

【年間指導計画（歴史的分野：年間40時間）】

月	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月	2時間	1章 歴史へのとびら 1節 歴史をとらえる 見方・考え方	(授業の約束事等) ◇歴史のとらえ方や調べ学習の方法を学ぶ	(1年間の学習方法を知る) ◇大きな流れと人物を復習し、また身近な地域の歴史に触れ、歴史学習への意欲を高める
5月	4時間	2章 古代までの日本 1節 世界の古代文明と宗教のおこり	◇人類の出現と進化 ◇古代文明のおこりと発展◇ 中国文明の発展 ◇ギリシャ・ローマの文明 ◇宗教のおこりと三大宗教	◇人類の誕生と進化から、人類の特徴を考える ◇古代文明が起こった地域の特色、中国やギリシャ・ローマ文明の特色と影響について考える ◇三大宗教のおこりについて、地域の特色から考える
6月	5時間			
7・8月	4時間	2節 日本列島の誕生と大陸との交流	◇日本列島の誕生と縄文文化 ◇弥文生文化と邪馬台国 ◇大王の時代	◇日本の成り立ちをはじめに関心を持つ ◇縄文・弥生時代のくらしの変化をつかむ ◇日本の統一国家が生まれた経過を整理して考える ◇調べ学習の方法を学び、中央区をテーマとして調べる
		2節 身近な地域の歴史	◇実際に身近な地域を調べる →夏休みの宿題とし、9月に発表する	
9月	5時間	3節 古代国家の歩みと東アジア世界 学習基盤B	◇聖徳太子の政治改革 ◇大化の改新 ◇律令国家の成立と平城京◇ 奈良時代の人々のくらし ◇天平文化 ◇平安京と東アジアの変化 ◇摂関政治と文化の国風化 →身近な地域調べの発表を合わせて行う	◇朝鮮・中国との交流の歴史を学ぶとともに、渡来人の文化の影響を考える ◇律令制度によって成立した古代国家のようすをつかむ ◇朝廷の政治と地方の支配・藤原氏の栄華を多面的にとらえる 仏教と文化の特色を理解する
10月	5時間			
11月	5時間	3章 中世の日本 1節 武士の台頭と鎌倉幕府	◇武士の成長 ◇武家の政権の成立 ◇鎌倉幕府の成立と執権始 ◇武士と民衆の生活 ◇鎌倉時代の文化と宗教	◇武士のおこりから武家政権の確立を通して封建制度のしくみを理解する ◇執権政治の進展と武家政権の強化を理解する ◇仏教と文化の特色を理解する
12月	5時間	2節 東アジア世界との関わりと社会の変動	◇モンゴルの襲来と日本 ◇南北朝の動乱と室町幕府 ◇東アジアのとの交流 ◇産業の発達と民衆の生活 ◇応仁の乱と戦国大名 ◇室町文化とその広がり	◇モンゴルの襲来のもつ歴史的意義をとらえる ◇南北朝の内乱をへて、守護大名が力をつけた理由をつかむ ◇民衆が成長していくし過程を理解する ◇仏教と文化の特色を理解する
1・2・3月	8時間			

中央区立銀座中学校年間シラバス

教 科	数 学	学 年	1 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

- ① 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性和意味を理解すると共に数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、一元一次方程式を用いたりする能力を培う。
- ② 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して図形に対する直感的な見方や考え方を深めると共に、論理的に考察し表現する能力を培う。
- ③ 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例についての理解を深めるとともに、関数関係をみだし表現し考察する能力を養う。
- ④ 目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書：東京書籍 副教材：数学の学習ノート（正進社）、
 使用教室：教室・数学教室・少人数教室 授業形態：習熟度別授業、一斉授業、少人数指導、T T 授業

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	定期考査・単元テスト・中テスト
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	定期考査・単元テスト・中テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。	授業へ積極的に取り組む態度（発言内容や話し合い活動、発表等） ・週末課題・問題集・テストの解き直し・テストの振り返り

【授業の進め方と学習のポイント】

- 考え方を理解するだけでなく、手を動かして計算することが大切。
- 計算の過程（途中式）を大切にし、他者に伝える記述を意識すること。
- 解けた喜びを感じるようにすること。
- 予習 → 授業 → 復習 のサイクルを守ること。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、説明をよく聞き大切なポイントはメモする。

【家庭学習の進め】

- ① とにかく一番大切なことは、学校の1時間1時間の授業を大切に聞くこと。書く前に説明をよく聞き、頭に入ったことをノートに写すこと。
- ② 問題を解いていて間違えたら、消さないで新たに書き換えること。どんな間違いをしたか明らかにすること。
- ③ また、理解できなかったことは早めに授業者に聞くこと。
- ④ 家に帰ったらまずすることは、教科書やノートを見直すこと。特に解けなかった問題は式を1行ずつ確認しながら解き直すこと。毎日5分でもよいので繰り返しましょう。
- ⑤ 提出物については提出・未提出だけでなく、途中式等の内容を評価するので、ていねいにやること。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス②言語能力×思考力・判断力・表現力

- A 第1章「正負の数」において、正負の数を利用して、5人の身長を工夫して求める方法を説明する。
- B 第5章「平面図形」において、既習の作図の考え方をいかして、75°の作図方法を説明する。
- C 第7章「データの分析と活用」において、データをもとに2列と3列のどちらの並び方で跳ぶのがよいか、自分の考えを説明する。

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月・5月・6月・7月	3 ③	0章 算数から数学へ ○約数・倍数・自然数 ○素数・素因数分解	○素因数分解をすることができる。
	25	1章 数の世界を広げよう [正負の数]	○正負の数の必要性和意味を理解する。 ○反対の性質をもつ量を、正負の数を用いて表すことができる。 ○正負の数の大小関係を不等号を使って表すことができる。
	④	(1)正負の数	○絶対値の意味を理解することができる。
	⑧	(2)加法と減法	○正負の数の加法・減法の計算ができる。 ○正負の数の乗法・除法の計算ができる。
	⑩	(3)乗法と除法	○いくつかの数の乗法を工夫して計算できる。 ○正負の数の累乗の計算ができる。
	②	(4)正負の数の利用 学習基盤 A	○正負の数の四則の混じった計算や分配法則を利用した計算ができる。
	①	章の問題 A	○数の範囲と四則計算の可能性について調べ、その関係を考えることができる。 ○正負の数を利用して、平均を工夫して求めることができる。 ○身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。
7月・9月・10月	18	1章 数学のことはを身につけよう。 [文字と式]	○文字を使うことの必要性和意味を理解する。 ○数量を文字を使った式で表すことができる。
	⑧	(1)文字を使った式	○文字式での積の表し方、累乗や商の表し方にしたがって、式を表すことができる。
	⑥	(2)文字式の計算	○文字に数を代入して式の値を求められる。 ○1次式のいろいろな計算ができる。
	③	(3)文字式の利用	○文字を使って、図形の面積や体積を表すことができる。
	①	章の問題 A	○いろいろな数量を文字を使った式で表すことができる。 ○等式や不等式の意味を理解し、数量間の関係を表すことができる。
11月・12月	14	3章 未知の数の求め方を考えよう。 [方程式]	○文字に値を代入して方程式の解を求めることができる。
	⑦	(1)方程式とその解き方	○等式の性質を使って、方程式を解くことができる。
	⑥	(2)1次方程式の利用	○移項を使って方程式を解くことができる。 ○いろいろな方程式を解くことができる。
	①	章の問題 A	○具体的な問題を、方程式を使って解決することができる。 ○比例式の性質を利用して文字の値を求めることができる。
1月・2月・3月	18	4章 数量の関係を調べて問題解決しよう。 [比例と反比例]	○関数の意味を理解する。
	③	(1)関数	○変域を不等号を使って表すことができる。 ○ともなって変わる2つの数量の関係を、表や式に表すことができる。
	⑧	(2)比例	○比例の関係を式に表すことができる。 ○座標の表し方を知る。
	⑥	(3)反比例	○比例のグラフをかくことができる。 ○比例のグラフから式を求めることができる。
	②	(4)比例と反比例の利用	○反比例の式を求めることができる。 ○反比例のグラフをかくことができる。
	①	章の問題 A	○反比例のグラフから式を求められる ○比例や反比例を利用して、身近な問題を解決することができる。

【1 学年 数学 年間指導計画】

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月・5月・6月	17 5章 平面図形の見方をひろげよう [平面図形] ⑥ (1)図形の移動 ⑧ (2)基本の作図 学習基盤 B ② (3)おうぎ形 ① 章の問題 A	○図形の移動 ○作図のしかた ○基本の作図 ○いろいろな作図 ○おうぎ形	○平行移動, 回転移動, 対称移動などを理解する。 ○直線や線分の意味を知り, 角や平行などを記号を使って表すことができる。 ○弧や弦の意味や表し方を理解する。 ○定規やコンパスを使って基本的な作図ができる。また, 基本的な作図を利用して, 円の接線などいろいろな図を書くことができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角を求めることができる。
7月・9月・10月	18 6章 立体の見方を広げよう。 [空間図形] ③ (1)いろいろな立体 ⑨ (2)立体の見方と調べ方 ⑤ (3)立体の体積と表面積 ① 章の問題 A	○いろいろな立体 ○直線や平面の位置関係 ○面の動き ○立体の展開図 ○立体の投影図 ○体積 ○表面積 ○球の体積と表面積	○多面体や正多面体の意味や特徴を理解する。 ○空間内にある平面が1つに決まる条件を理解する。 ○平面と平面, 平面と直線, 直線と直線の位置関係を理解する。 ○平面図形の移動によってできた立体について理解する。 ○角柱, 円柱, 角錐, 円錐に展開図とその特徴について理解する。 ○円錐の側面になるおうぎ形の中心角を求めることができる。 ○投影図の意味を理解し, 投影図から立体を読み取ることができる。 ○立体の体積や表面積が求めることができる。 ○球の体積や表面積が求めることができる。
11月・12月	10 7章 データを活用して判断しよう。 [データの分析と活用] ④ (1)データの分布の見方 ① (2)データの分布の特徴の表し方 ① (3)データの活用 学習基盤 C ③ (4)ことがらの起こりやすさ ① 章の問題 A	○度数の分布 ○累積度数 ○累積相対度数 ○範囲と代表値 ○近似値と有効数字	○度数分布表などの意味を理解する。 ○資料を度数分布表に整理することができる。 ○相対度数を求めて, 資料の傾向を読み取ることができる。 ○ある階級までの全体に対する割合を求めることができる。 ○階級や範囲, 代表値などの用語の意味を理解する。 ○目的に応じて資料を分析し, 説明できる。 ○近似値や誤差の意味を理解する。 ○有効数字の意味と近似値の表し方を理解し, 表すことができる。
1月・2月・3月	13 ⑭ まとめ		

教 科	理 科	学 年	1 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書（東京書籍）、理科便覧（浜島書店）、基礎徹底64（新学社）、ジャストスタディ（あかつき）、教室と理科室、一斉授業

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	ワーク・小テスト・定期考査 実験レポート・ワークシート ノート・パフォーマンステストなど
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	発言・小テスト・定期考査 実験レポート・ワークシート ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	授業態度・発言・小テスト 定期考査など

【授業の進め方と学習のポイント】

- 復習問題（基礎徹底64）で、自分が理解していないところを復習しよう。
- 授業のポイントをしっかり抑えよう。
- 観察・実験の目的をしっかりと意識して観察・実験を行おう。
- 観察・実験を行うときは、観察・実験の手順を予習しておきましょう。スムーズに観察・実験ができます。

【家庭学習のすすめ】

- 学習した単元項目を確認し、復習問題（基礎徹底64）で、自分が理解していないところを覚える。
- 単元プリント（ジャストスタディ）などの問題を解いて、学習が定着できるようにする。

【学習の基盤となる資質・能力を身につけた生徒の育成】

- A 単元1「さまざまな植物の分類」
 - ・さまざまな生物の共通点と相違点に着目し、タブレットを活用して生物を特徴ごとに分類する。（問題発見・解決力、学びに向かう力）
- B 単元3「音の伝わり方」
 - ・音の大きさや高さや音源の振動にはどのような関係があるかを考える。（情報活用能力、思考力・判断力・表現力）
- C 単元4「火山の活動と火成岩」
 - ・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、火山活動と火成岩の関連をまとめ、説明する。（言語能力、知識技能）

年間指導計画【生物・化学・物理分野（70時間）】

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4 ・ 5	単元1 いろいろな生物とその共通点 ⑥ 1章 生物の観察と分類のしかた ⑩ 2章 植物の分類	○身近な生物の観察 ○生物の特徴と分類【A】 ○身近な植物の分類 ○果実をつくる花のつくり ○裸子植物と被子植物 ○花をさかせず種子をつくらない植物 ○さまざまな植物の分類	・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類のしかたについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ・植物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。 ・進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う
6 ・ 7 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	単元2 身のまわりの物質 ⑧ 1章 身のまわりの物質とその性質 ⑤ 2章 気体の性質 ⑦ 3章 水溶液の性質 ⑥ 4章 物質の姿と状態変化 ① 単元末	○物の調べ方 ○金属と非金属 ○さまざまな金属の見分け方 ○白い粉末の見分け方 ○身のまわりの気体の性質 ○気体の性質と集め方 ○物質が水にとけるようす ○溶解度と再結晶 ○物質の状態変化 ○物質の状態変化と体積・質量の変化 ○状態変化が起こるときの温度と蒸留 ○学習内容の整理・確かめと応用	・身のまわりの物質をさまざまな方法で調べる実験を通して、物質には密度や加熱したときの变化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身につける。 ・気体を発生させてその性質を調べる実験を通して、気体の種類による特性を理解するとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。 ・水溶液から溶質を取り出す実験を通して、その結果を溶解度と関連づけて理解する ・水溶液に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究する態度を養う。 ・物質の状態変化についての観察、実験を通して、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解する。また、物質は融点や沸点をさかいに状態が変化することを知らるとともに、混合物を加熱する実験を通して、沸点のちがいによって物質の分離ができることを見いだして理解する。
12 ・ 1 ・ 2	単元3 身のまわりの現象 ⑪ 1章 光の世界 ⑤ 2章 音の世界	○物の見え方 ○光の反射 ○光の屈折 ○レンズのはたらき ○音の伝わり方【B】 ○音の性質	・光についての観察、実験を通して、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性や、凸レンズのはたらきについての実験から、物質の位置と像の位置および像の大きさの関係を理解する。 ・光に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・音についての観察、実験を通して、音は物体が振動することによって生じ空気中などを伝わることや、音の高さや大きさは発音体の振動に関係することを理解する。

月	単元名		主に学習すること	学習のねらい
2 ・ 3	⑨	単元3 身のまわりの現象 3章 力の世界	○日常生活のなかの力 ○力のはかり方 ○力の表し方 ○力のつり合い	・物体に力をはたらかせる観察、実験を行い、物体に力がはたらくとその物体が変形したり動き始めたり、運動のようすが変わったりすることや、力は大きさや向きによって表されること、物体にはたらく2力のつり合う条件を理解する。
	①	単元末	学習内容の整理・確かめと応用	

年間指導計画【生物・地学分野（35時間）】

月	単元名		主に学習すること	学習のねらい
4 ・ 5 ・ 6	⑨	単元1 いろいろな生物とその共通点 3章 動物の分類	○身近な動物の分類 ○セキツイ動物 ○無セキツイ動物 ○動物の分類表の作成	・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、動物のからだの共通点と相違点を理解する。 ・身近な動物についての観察、実験などを通して、いろいろな動物の共通点や相違点を見いだすとともに、動物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。 ・動物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う
	①	単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	
6 ・ 7 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	② ⑦ ⑥ ⑩	単元4 大地の変化 プロローグ 1章 火をふく大地 2章 動き続ける大地 3章 地層から読み取る大地の変化	○身近な地形の地層・岩石の観察 ○火山の姿からわかること ○火山がうみ出す物 ○火山の活動と火成岩[C] ○火山とともにくらす ○地震のゆれの伝わり方 ○地震が起こるところ ○地震に備えるために ○地層のつくりとはたらき ○堆積岩 ○地層や化石からわかること ○大地の変動 ○身近な大地の歴史	・身近な地形や地層、岩石の観察に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与する態度を養う。 ・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、火山活動と火成岩、自然のめぐみと火山災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解する。 ・火山、自然のめぐみと火山災害に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地震の伝わり方と地球内部のはたらき、地震災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解する。 ・地震、地震災害に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地層の重なりと過去の様子について基本的な概念や原理・法則などを理解する。 ・地層の重なりと過去の様子について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性などを見いだして表現する。
	①	単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	

教科	英語	学年	1年
----	----	----	----

【教科の目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材：『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1』（三省堂）

副教材：『JOYFUL WORKBOOK 1』（新学社）、『Let's Enjoy BINGO 1』（浜島書店）、
『積み上げ 英語1』（明治図書）、『サマーアプローチ』（教育同人社）、
『ウィンターアプローチ』（教育同人社）

使用教室：1年2組教室、1年3組教室、1年4組教室、1年5組教室、3階進路指導室、3階英語室
4階国際理解教室

指導形態：少人数指導、必要に応じてTT指導

【評価の観点と方法】

観点	評価の規準	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（「知識・技能」の分野） ・単元テスト（「知識・技能」の分野） ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト <p style="text-align: right;">等</p>
思考・判断・表現	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考・判断・表現の分野） ・単元テスト（「思考・判断・表現」の分野） ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト <p style="text-align: right;">等</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察（言語活動への取り組み・コミュニケーションの継続） ・振り返りシートの取り組み状況 ・ノートやワーク等の提出状況 ・定期考査（主体的に学習に取り組む態度の分野） ・パフォーマンステストへの取り組み状況 <p style="text-align: right;">等</p>

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業の基本は、「先生の話をよく聞くこと」です。授業中の集中を大切にしましょう。
- 単語や表現は「聞く」→「話す」→「読む」→「書く」の順で覚えます。始めの「聞く」を大切に、あとのステップに繋げていきましょう。
- まず覚える、覚えたら使う、使う場面を想定して学習するようにしましょう。
- わからない文法事項は、理解できるよう復習と見直しを行ないましょう。
- 授業中に使ったプリントは、きちんとファイルに保管して復習に活用できるようにしましょう。
- 授業準備、課題の提出期限をしっかりと守りましょう。

【家庭学習のポイント】

- 家庭学習では、次のことをやりましょう。
 - ①デジタル教科書の音声を聞きながら音読練習（目安は1ページにつき5回）
 - ②音読しながら本文をくりかえし書く練習(目安は1ページにつき2回)
 - ③単語練習(日本語を見て英語を正しく書けるようになるまで)
 - ④ワークを解く（自力で解く→教科書等を見ながら解く→答え合わせ）
 - ⑤テストの間違え直し（間違えた理由や文法事項を確認する）
- その日に習ったことを復習することや、宿題などをコツコツやりましょう。語学習得は、「1週間分をまとめて1回」ではなく、「毎日少しずつコツコツ」が大切です。
- 英単語・英熟語・英文を何度も声に出して読み、音とスペルを一致させて覚えるようにしましょう。
- 各種検定に積極的にチャレンジしよう！
- 配布されたプリントはファイルに入れて、学習に生かしましょう。
- 提出物は提出期限を必ず守りましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身につけた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス② 言語能力×思考力・判断力・表現力

A Reading for Information 1 文房具のチラシ

文房具店のチラシを読み、自分が必要とする情報を読み取り、整理する。

B Reading for Information 2 観光マップ

観光マップを読んで、自分が必要とする情報を読み取り、表現する。

【年間指導計画 (1年英語140時間)】

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4		<p>Starter 1 英語の文字と音</p> <p>Starter 2 コミュニケーションを楽しもう(1)</p> <p>Starter 3 コミュニケーションを楽しもう(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●あいさつの仕方を知る。 ●アルファベットや簡単な語を、聞いたり話したりする。 ●月、日、曜日などの簡単な単語の意味を理解し、聞いたり話したりする。 ●1日の生活や町の施設や建物について、聞いたり話したりする。
5	L1	<p>About Me</p> <p>新しい友だちや先生との中学校生活</p> <p>Get Plus 1 What food...?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●be 動詞と一般動詞の現在形(1・2人称)の肯定文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●be 動詞と一般動詞の現在形(1・2人称)の肯定文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●What...?の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
6	L2	<p>English Camp</p> <p>国際交流イベント、地域の行事</p> <p>Get Plus 2 How many...?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●助動詞 can の肯定文・否定文・疑問文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●助動詞 can の肯定文・否定文・疑問文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●How many...?の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
7	L3	<p>Our New Friend</p> <p>インドからの転校生、異文化</p> <p>Take Action! Listen 1 商品の説明</p> <p>Take Action! Talk 1 ねえ、聞いて!</p> <p>Reading for Information 1</p> <p>文具のチラシ 学習基盤 A</p> <p>Project 1 理想のロボットは発表しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●be 動詞(3人称)の肯定文・否定文・疑問文・What is this?や人称代名詞(目的格)を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●be 動詞(3人称)の肯定文・否定文・疑問文・What is this?や人称代名詞(目的格)を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●商品の説明について話された英文を聞いて、必要な情報を捉える。 ●「会話を始める」「あいづちを打つ」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合う。 ●決まった予算の坂でプレゼントを買うために、文房具店のセールについて書かれたチラシを読んで、必要な情報を捉える。 ●自分の考えたロボットができることやロボットの特徴について、事実や自分の考えを理解し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く。
9			
10	L4	<p>My Family、 My Hometown</p> <p>イギリス、家庭、ホームタウン</p> <p>Take Action! Listen 2 競技会場のアナウンス</p> <p>Take Action! Talk 2 またあとでね</p> <p>Get Plus 3 Which...?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●3人称単数現在形の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●3人称単数現在形の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●会場のルールを理解するために、注意事項について話された英文を聞いて、要点を捉える。 ●「会話を終える」「あいづちを打つ」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合う。

1 1	L5	School Life in the USA アメリカの中学校と中学生の生活 Take Action! Listen 3 映画の紹介 Take Action! Talk 3 青いTシャツは いかがですか Get Plus 4 Whose...?	<ul style="list-style-type: none"> ●Which ... A or B?の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●現在進行形の肯定文・疑問文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●現在進行形の肯定文・疑問文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。 ●映画のあらすじを知るために、映画について話された英文を聞いて、概要を捉える。 ●「提案する」「好みを伝える」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合う。 ●Whose oo is this?などの意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
	L6	Discover Japan 日本の伝統文化、旅行 Take Action! Listen 4 ボイスメッセージ Take Action! Talk 4 ABC ケーキは どこですか Reading for Information 2 観光マップ 学習基盤B Project 2 英語のタウンガイドを作 ろう	<ul style="list-style-type: none"> ●一般動詞（規則・不規則）の過去形の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●一般動詞（規則・不規則）の過去形の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。 ●パーティーに関する打ち合わせの内容について話された英文を聞いて、必要な情報を捉える。 ●「道順を尋ねる」「道順を説明する」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合う。 ●おすすめの場所を提案するために、施設やお店について書かれた観光マップを読んで、必要な情報を捉える。 ●自分の町の魅力を発信するために、おすすめの場所について事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く。
1	L7	Wheelchair Basketball 車いすバスケットボール Take Action! Listen 5 インタビュー Take Action! Talk 5 どんな漫画が 好きなの？	<ul style="list-style-type: none"> ●be 動詞の過去形の肯定文・過去進行形の肯定文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●be 動詞の過去形の肯定文・過去進行形の肯定文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●インタビューの内容を理解するために、視聴者から質問されたことについて話された英文を聞いて、要点を捉える。 ●「質問する」「情報を付け加える」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合う。
2	L8	Get Plus 5 You look ... Green Festival 自然、環境保護 Take Action! Listen 6 天気予報	<ul style="list-style-type: none"> ●look 形容詞の文の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●助動詞 will・be going to ...の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●助動詞 will・be going to ...の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。アメリカについて知る。

3	Take Action!Talk 6 もう一度言っ て	<ul style="list-style-type: none"> ●天気を知るために、天気・温度について話された英文を聞いて、必要な情報を捉える。 ●「描写する」「聞き直す」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合っている。
	Project 3 大切なものを紹介しよう Reading for Fun Alice and Humpty Dumpty	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の大切にしているものについて、事実や自分の気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。 ●物語の大まかな流れ等を理解するために、アリスの冒険を読み、概要を捉える。

教 科	音 楽	学 年	1 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

- ・仲間と協力して表現をつくりあげる音楽活動の喜びを体験することを通して、音や音楽に対する興味・関心を高める。
- ・曲想や背景、楽曲構造を理解させ、創意工夫を生かした音楽表現をさせる。
- ・多様な時代や国の音楽の学習を通して、音楽が人々の生活や文化に果たす役割について考えを深めさせる。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材：音楽の教科書（教育出版）、MYSONG（教育芸術社）、音楽のハーモニー（正進社）、ファイル
 使用教室：第1音楽室、第2音楽室
 指導形態：一斉指導、グループ活動

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を生かし、音楽表現を創意工夫している。 ・音楽を自分なりに評価しながら、よさや美しさについて説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・協働的に音楽活動に取り組み、体験を通して、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていくとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ワークシート

【授業の進め方と学習のポイント】

- 音楽を聴くときは、いつも「どのような特徴があったか」、「どのような感じがしたか」を意識して聴き、言葉にして表現してみましょう。
- 音楽を表現するときは、基本的な技能の習得だけでなく、「意思の強さを伝えるために、ここははっきりと発音して歌おう」というように、曲の思いや意図を表現するために創意工夫をしよう。
- 授業では皆さんの発言を取り入れながら進めます。是非積極的に挙手して発言しましょう。また、仲間の意見もメモし、表現の幅を広げましょう。

【家庭学習の進め方】

- 教科書やワークシートを見て、授業で学習した内容を復習しましょう。
- 実技は、基本的な歌唱方法や表現の工夫を意識して練習しましょう。音程や歌詞は覚えましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身につけた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑥情報活用能力×学びに向かう力

- A シューベルト「魔王」を鑑賞し、曲想の変化や曲全体の構成が、どのように登場人物の様子や心情と関わっているのかを理解し、自分の言葉で説明する。
- B 中田喜直「夏の思い出」において、曲想と音楽の構造等との関わりを理解し、音楽の諸要素の知覚・感受を基にどのように歌いたいかわきや意図をもって歌唱表現を工夫する。
- C 合唱曲は、クラス合唱をグループ発表や録音等で客観的に聴いて課題を見つけ、それを解決するためにどのような練習をするべきか話し合い、実践する。

【年間指導計画（音楽）】

	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月	4	正しい発声を確認しよう。 ・音楽科のルール、合唱の基本、楽典の基礎 ・自分の声の音域決め ・「校歌」	・基礎の姿勢、表情、発声方法 ・校歌の旋律、強弱、歌詞の意味について	・音楽の基礎知識を身につけて、多様な表現に生かす。 ・歌唱の正しい姿勢と発声方法を身につける。
5月	3	言葉の抑揚と旋律との関わりを生かして歌おう。 ・B「夏の思い出」	・発音、鼻濁音 ・強弱の表現方法 ・音楽の要素（強弱、速度、伴奏）と曲想の関わり	・音楽の要素を工夫することによって、曲想や雰囲気の変化を理解する。 ・曲想に合わせた発音方法（鼻濁音等）を身につける。
6月	4	物語の進行と歌唱表現との関わりを感じ取って聴き、紹介文を書こう。 ・A「魔王」	・曲の構成 ・登場人物による歌唱表現の変化 ・物語と伴奏の関わり	・声の音色や強弱の変化を知覚させ、それらが生み出す雰囲気を感じさせる。 ・物語の変化と曲想の変化との関わりを理解させる。
7月				
9月	18	学習発表会に向けて混声三部合唱を練習しよう。 ・C自由曲	・パート練習の仕方、リーダー決め ・各声部の役割の把握 ・全体のハーモニーづくり	・リーダーを軸としたパート練習の仕方を習得する。 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を創意工夫する。 ・声部の役割を理解させ、全体の響きを考えて表現させる。
10月				
11月	3	独奏ヴァイオリン及び弦楽合奏による表現と、ソネットとの関わりを感じ取ろう。 ・「四季」より「春」	・拍子やリズムの捉え方 ・速度、強弱による曲想の変化	・各楽器の音色を知覚させる。 ・ソネットと旋律の特徴の関わりを理解させる。 ・曲の良さや美しさについて、自分なりに考えて言葉で表現させる。
12月	3	箏の基本的な奏法を身につけて、合わせて演奏しよう。 ・「さくらさくら」	・基本奏法（爪、姿勢とかまえ方、親指の使い方） ・基本知識（調弦法、楽器について、楽譜の読み方） ・歴史と奏法	・日本の伝統音楽に関心をもたせるとともに、日本音楽と西洋音楽の違いを理解させる。 ・箏の基本的な奏法を体験させる。 ・箏特有の音色や旋律を味わいながら鑑賞させる。
1月				
2月	2	日本の民謡の声の出し方や、歌い合わせ方などの特徴を理解して歌おう。 ・「ソーラン節」	・民謡の発声方法 ・囃子ことばについて ・民謡の種類やつくられた背景	・民謡の特有の発声方法を学ぶ。 ・民謡ができた背景を知り、日本の文化と音楽との関わりについて理解する。
3月	8	三送会・卒業式に向けて ・混声三部合唱 ・「蛍の光」他	・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり ・パート練習の仕方 ・楽曲の基礎知識	・声部の役割を理解し、全体の響きを感じ取って歌うようにさせる。 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、心を込めて歌うようにさせる。

教科	美術科	学年	1年	(令和5年度)
----	-----	----	----	---------

【教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

○感じる表す美術（浜島書店） ○教科書 ○レタリング・ポスター資料集 ○美術室 ○一斉授業 ○個別指導

【評価の観点と資料】

観点	評価基準	評価資料
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の基礎的技能を生かし、表現するための技能を新たに習得することができる。 ・日本及び諸外国の美術や美術文化を理解し国際理解を深めることができる。 ・生活や社会における美術の働きについて理解することができる。 ・制作順序など見通しをもち制作することができる。 ・用具を適切に扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・ワークシート ・定期考査 ・鑑賞ワークシート ・鑑賞レポート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・題材に応じて発想力や想像力を働かせ、問題解決への道筋を立て、表現力を働かせて解決することができる。 ・造形的な視点で見つめて、感じたことや考えたことを言葉で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・ワークシート ・定期考査 ・アイディアスケッチ ・鑑賞ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に関心を持ち、授業に取り組むことができる。 ・意欲的に美術の能力を身につけようとしている。 ・提出物の提出期限を守ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ワークシート ・定期考査

【授業の進め方と学習のポイント】

- 作品は制作過程も大切です。その授業ごとの目標を押さえ、達成できるよう努力しましょう。また、途中で放棄せず自分なりの完成を目指しましょう。
- 作品は限られた時間の中で制作するので、見通しをもって計画的に進めましょう。
- 目標に向けて構成を練り、身に付けた技能を発揮する力を身に付けようとしましょう。
- 表現や鑑賞の基本的な知識をしっかりと学び、身に付けましょう。

【家庭学習の進め方】

- 日頃の生活の中で、何かを見たり聞いたり触れたりしたときに、自分なりに感じ取る感性を大切にし、身の回りにあふれる色や形に関心を持ちましょう。
- 美術館や展覧会にも積極的に行き、感性や造形的視点を磨きましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス④情報活用能力×知識技能

- A「鑑賞:ポスター」作品を造形的な視点で鑑賞し読み取ったことを文字を使って表現する。(言語能力・思考力、判断力、表現力)
- B「ポスター制作」どのように工夫したら伝えたい内容を伝えることができるのか発想・構想を働かせる。(問題発見、解決力・思考力、判断力、表現力)
- C「デザイン名刺」学んだり、調べたりしたレタリングの技能やフォントを活用し作品を制作する。(情報活用能力・思考力、判断力、表現力)

【年間指導計画（年間 35 時間）】

月	時数	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	1	1.オリエンテーション	○美術の授業について ○美術の授業での心構え	○美術の授業でどんな力を身につけるのか理解する。
5	1	2.美術のカテゴリー	○アートとデザインの違いについて	○アートとデザインの違いを学び、単元ごとに意識することの違いを学ぶ。
	2	3.色の整理	○色の三要素、有彩色、無彩色について	○色についての基本的な知識を学ぶ
	3	4.文字のデザイン	○文字の与える印象、レタリングについて	○文字が与える印象について学び、レタリングの技能を身につける。
6	4	5.デザイン名刺C	○文字の与える印象を使い伝えたい内容を伝えることについて	○色や形、文字を使いデザインする力を身につける。
7	2	6.鑑賞:ポスターA	○ポスターのデザインについて	○ポスターについての知識を身につける
	2	7.ポスター制作B	○ポスターを使い伝えたい内容を伝えることについて	○色や形、文字を使いポスターをデザインする力を身につける。
	(15)			
9	2	8.用と美を考えたデザイン	○美しさと使いやすさを兼ね備えたデザイン	○使いやすさと美しさを兼ね備えた色や形について学ぶ。
10	2	9.使用用途を考えたデザイン	○ユニバーサルデザイン 伝統工芸	○ユニバーサルデザインや伝統工芸からデザインについて学ぶ。
11	10	10.使いやすくて美しいペーパーナイフ	○美しさと使いやすさを兼ね備えたペーパーナイフを制作する。	○使いやすさと美しさを兼ね備えたデザインについて考え、表現する力を身につける。
	2	11.遠近法の仕組み	○一点通し方 空気遠近法	○遠近法の知識について学ぶ。
12	2	12.陰影の効果	○平面の中の立体感について	○陰影の効果の知識について学ぶ
	(18)			
1	2	13.デッサン（素描）について	○鉛筆の使い方、デッサンの表現について	○鉛筆の使い方を身につける。素描での表現について学ぶ
2	7	14.クロッキー・デッサン	○クロッキー、デッサンを通してモチーフをよく観察する。	○クロッキー、デッサンを通して造形的な視点で観察する力を身につける
3	4	15.モダンテクニック	○ドリップング デカルコマニー マーブリング	○モダンテクニックの技法を身につける。
	(12)			

中央区立銀座中学校年間シラバス

教科	保健体育科	学年	1年	(令和5年度)
----	-------	----	----	---------

【教科の目標】

体育的活動・保健の授業を通して、スポーツや体を動かす喜びを味あわせる。また身体や健康に関する知識、理解を深めさせる。本校の保健体育科で育てたい生徒像は以下の通りである。

- ◇自分で健康の保持・増進、安全に配慮できる生徒。
- ◇自分で体力づくりができる生徒。
- ◇積極的に運動に親しみ、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる生徒。
- ◇苦しさを乗り越えて問題を解決することのできる生徒。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

- ◇使用教材：保健体育教科書（東京書籍）、図解中学保健体育（あかつき）、保体資料ノート
- ◇使用教室：各教室、体育館、校庭、屋上プール、屋上運動場
- ◇指導携帯：一斉授業、課題別グループ学習、習熟度別グループ学習

【評価の観点と資料】

観 点	評 価 規 準	評 価 資 料
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的な実践に関して具体的な事柄や生涯に渡って運動を豊かに実践するための理論について理解している。 ・運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 ・個人生活における健康・安全について科学的に理解し、基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業への参加姿勢や取り組み ◇学習カード ◇発表・発言 ◇宿題・ノート提出
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫し、それらを他者に伝えている。 ・個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇技能向上の取り組み ◇安全管理への配慮 ◇学習カード ◇発表・発言 ◇学習カード
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に組もうとしている。 ・健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇話を聞く姿勢・態度 ◇定期考査 ◇学習カード ◇授業観察

【授業の進め方と学習のポイント】

- ◇基礎・基本を大切に、関心・意欲を高める。
- ◇基礎体力の向上と各種の運動技能の習得を図る。
- ◇準備や片付けをみんなで協力して行う態度を養う。
- ◇自己の能力を分析し、練習を工夫してその能力を高めることができる。
- ◇習熟度別の授業形態を工夫する。

【家庭学習の進め方】

日頃から新聞やテレビ、インターネットなどでスポーツニュースに親しむ。特にそのシーズンのスポーツや全国的、世界的に活躍している人物や競技を調べると良い。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑧問題発見・解決力×思考力・判断力・表現力

- A 各種目の歴史や特性、競技規則などを調べて種目への理解を深める。（情報活用能力・学びに向かう力）
- B 器械運動で自分の演技を記録し、課題を発見し、解決方法を見つける。（問題発見・解決力・思考力・判断力・表現力）
- C ダンスの単元で、グループで意見を出し合い、作品をまとめあげる。（言語活用能力・思考力・判断力・表現力）

【年間指導計画（年間105時間）】＜1年＞

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月	⑤ * 集団行動 体力測定 ② 集団行動訓練 ⑥ * 陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合隊形、基本姿勢 ・ 準備運動、ラジオ体操 ・ 体力テスト測定 ・ 集団行動 ・ 短距離走、ハードル走、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育活動を行う集団としての素速さや合理性を高める ・ 柏宿泊を通して集団行動を学ぶ ・ 自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる
5月	⑥ * 体育大会種目練習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短距離走、リレー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の能力の向上を目指し努力する
6月	⑩ * 球技1・走り高跳び ⑥ * ボッチャ	<ul style="list-style-type: none"> ・ バasketボール、走り高跳び ・ 種目の中での効率的な動き ・ 基本技能の習得 ・ 戦略的知識の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる・個人的技能や集団技能を練習やゲームの中で仲間と協力して高める。 ・ 自己やチームの特徴に応じて、作戦を立て、役割に応じた活動をする。
7月	⑩ * 水泳【A】 ⑤ * 健康な生活と疾病の予防①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泳法（クロール、平泳ぎ） ・ 健康の成り立ちと疾病の発生要因、運動と健康、食生活と健康、休養・睡眠と健康、調和のとれた生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水に親しみ楽しく泳ぎ、自己の能力に適した課題を考えて練習する ・ 記録測定では自己の記録の向上を目指し努力する。 ・ 自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる ・ 健康の成り立ちについて始h莉、疾病はどのような要因で起こるか知る。健康に関する解決法を考え、判断し表現する。
9月	③ * 運動やスポーツの多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの多様性、必要性、多様な楽しみ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの多様性、必要性、多様な関わり方を知る。
10月	⑩ * ダンス【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本技能の習得 ・ 効率的な動き ・ 技の組み合わせ、連続技 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な技能を身に付けさせる。 ・ 自己の能力に適した課題を設定して楽しく安全に協力して練習に取り組む。
11月	⑩ * 器械運動【B】 (マット、跳び箱運動)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本技能の習得 ・ 効率的な動き ・ 技の組み合わせ、連続技 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の能力に適した課題を設定して集団としての表現をしていく。
12月	⑫ * 球技2 ⑩ 心身の機能の発達と心の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ バレーボール ・ アルティメット ・ 体の発育・発達、呼吸器・循環器の発育・発達等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能や集団技能を練習やゲームの中で仲間と協力して高める ・ 基本技能を高めるとともに、パスを効率よく使いチームとして多彩な攻めができるようになる。 ・ 体の機能は、どのように発育・発達するか、また、心の健康を保つ方法を知る。
1月 2月 3月	⑭ * 武道(柔道) * 陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受身、固め技、投げ技 ・ 長距離走 ペース走、走り方、呼吸法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な技能を身に付けさせる。 ・ 自己の能力に適した課題を設定して楽しく安全に協力して練習に取り組む。 ・ 基本技能、安全を重視した試合をする ・ 個人的技能身に付け練習や記録測定の中で仲間と協力してできる

教 科	技術科	学 年	1 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

◇技術・家庭「技術分野」（開隆堂） ◇地下1階 木工室・金工室
 ◇材料と加工の技術 ◇情報の技術

【評価の観点と方法】

観点	評価規準	評価方法
知識・技能	材料と加工、情報の技術について理解しているとともに、それらに関わる技能を身に付けている。	◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇定期考査
思考・判断・表現	材料と加工、情報の技術について、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇小テスト ◇定期考査
主体的に学習に取り組む態度	材料と加工、情報の技術を活用し、よりよい生活の社会や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	◇作品 ◇課題等提出物内容

【授業の進め方と学習のポイント】

- 座学での内容を踏まえて、製作・作業実習に入るので、授業内容をよく理解し、不明な点・疑問な点はその日のうちに解決すること。
- 作業は安全を第一として参加すること。
- 作業は座学の内容を十分復習をして、作業の目的をはっきりと認識して取り組むこと。
- 提出物・作業は期限を守ること。
- 定期考査の前には、プリントをよく復習すること。

【家庭学習の進め方】

一番大切なことは、授業内容の理解です。プリントの内容や授業中の解説を復習するとともに、新たな言葉は調べ学習なども行い理解を深めることが大切です。
 図面や専門用語の多いことが特徴の教科です。特殊な言い回しや用語を覚えると先生との授業中の会話に無駄がなくなります。
 思考・判断・表現についての力を身につけるためには、社会での技術の活用を知ること大切です。授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をしましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑨

- A「等角図法」等角図から寸法や形の情報を読み取り、それを利用して別の図法で同じ物体を製図する。
- B「立体模型および製作図の作成」課題を解決するための作品を構想し、立体模型でそれを表現する。さらに模型を参考にして等角図で作品の設計図を製図する。
- C「情報モラルやセキュリティを考えよう」資料のWebサイトを分析し、セキュリティ上危険な箇所を見つける。さらに、自分が情報の発信者となった場合に同じような危険を回避するためにどうしたらよいかをまとめる。（問題発見・解決力、学びに向かう力）

【年間指導計画（技術35時間）】学習の基盤となる資質・能力の育成を意識した授業＝**学習基盤**

●1年生

時間	指導項目（単元名）	学習内容	学習のねらい	
1	生活や社会における技術の役割	技術を見つけよう	<ul style="list-style-type: none"> ■技術を学ぶ目的の理解 ■授業の受け方 	
2		技術と私たちの生活	<ul style="list-style-type: none"> ■技術の進展と生活・産業 ■持続可能な社会と共生 	
3	A 材料と加工の技術	材料と加工の技術の原理・法則と仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ■身の回りにある製品に使われている材料の種類を知る。 ■木材・金属・プラスチック、それぞれの特徴を知る ■材料と環境とのかかわりを知り、材料の使い方について考える。 	
4			<ul style="list-style-type: none"> ■物体を等角図でかき表すことができる。 ■等角図を読み取り、別の図法に描き直すことができる。 	
5 6			等角図法 学習基盤A	
7			第三角法による正投影図法 <ul style="list-style-type: none"> ■物体を第三角法でかき表すことができる。 	
8	材料と加工の技術の原理・法則と仕組み	安全指導 けがき	<ul style="list-style-type: none"> ■安全に作業を行うための視点や確認事項を知る。 ■木取りの方法や木取り図を知る。 ■さしがねの使用方法を理解し、材料にけがきができる。 	
9		実習：練習題材（ペン立ての製作）	切断	■正しい両刃のこぎりの使用方を理解し、材料を切断することができる。
10 11			部品加工	■やすり、ベルトサンダ、糸のこ盤、電動ドリルの使用方を理解し、断面の処理や下穴空けなど部品加工の作業ができる。
12 13			組み立て	■げんのう、万力の使用方を理解し、組み立て作業ができる。
14			仕上げ	■紙やすりの使用方と安全点検のポイントを理解し、適切な仕上げおよび点検ができる。
15	材料と加工の技術による問題解決	問題解決の視点	■材料と加工の技術による問題解決の手順や視点、アイデアを考えることができる。	
16		問題の発見と課題の設定	■生活の中から、身の回りの問題を見いだして、課題を設定することができる。	
17 18 19	実習：本題材（マルチラックの製作）	立体模型および製作図の作成 学習基盤B	<ul style="list-style-type: none"> ■設定した課題に基づき、立体模型を試作することができる。 ■立体模型をもとに、製作図を描くことができる。 	
20		けがき	■製作図をもとに木取り図を作成し、材料にけがきをすることができる。	
21		切断	■適切な工具・機械を用いて切断加工を行うことができる。	
22 23 24		部品加工	■適切な工具・機械を用いて部品加工を行うことができる。	

25			組み立て	■適切な工具・機械を用いて組み立てを行うことができる。	
26			仕上げ	■適切な工具を用いて仕上げができるとともに、適切な視点に基づいた点検ができる。	
27					
28		これからの材料と加工の技術	・学習のふりかえり ・材料と加工の技術と私たちの未来	■これまでの学習をふりかえり、実習の改善点等をまとめることができる。 ■よりよい生活を実現する材料と加工の技術について自分なりに考え、意見をまとめることができる。	
29	D 情報 の 技 術	情報の技術の原理・法則と仕組み	・情報の技術とは何だろう ・コンピュータの構成 ・情報のデジタル化	■生活や社会、産業のさまざまな場面でコンピュータなどの情報の技術が利用されていることを知る。 ■コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアについてまとめることができる。 ■コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを知る。	
30			情報のデジタル化	■コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを知る。 ■情報のデジタル化の方法をまとめることができる。	
31			情報通信ネットワークの仕組み	■情報通信ネットワークの仕組みについてまとめることができる。 ■情報通信ネットワークを使って、情報をやりとりする仕組みについて知る。	
32			情報の技術の原理・法則と仕組み	ネットワークを安全に利用するための情報モラル	■情報の特性について考え、情報が社会に与える影響について知る。 ■望ましい情報社会のための態度について考えることができる。
33			実習：インターネット上に公開する情報について考える	安全に利用するための情報セキュリティ	■情報セキュリティを実現するための3つの要素を知る。 ■安全にネットワークを利用するための心がまえや注意点をまとめることができる。
34		著作権	■知的財産権の基本と種類について知る。 ■著作権と著作物の利用方法について知る。		
35		情報モラルやセキュリティを考えよう 学習基盤C	■SNSやWebサイトに掲載されている情報を確認し、危険性を見つけることができる。 ■望ましい情報発信の方法について提案することができる。		

※学校行事、授業の進捗状況、材料の入荷状況により、学習内容の順番を入れ替えることがあります。

教科	家庭科	学年	1年	(令和5年度)
----	-----	----	----	---------

【教科の目標】

生活についての理解を深め、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技術を身に付ける。実践的・体験的な活動を通して、課題を見つけて解決したり、考察したことを論理的に表現したりして、生涯を見通して課題を解決する力を身につける。家族や地域の人々の関わりを考え、協働し、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫する実践的な態度を身につける。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

◇技術・家庭 家庭分野（開隆堂）、技術・家庭総合ノート 家庭分野（明治図書）、プリント、ファイル
 ◇各教室、被服室 ◇一斉授業、グループ学習指導

【評価の観点と資料】

観点	評価基準	評価資料
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技術を身に付けている。	ワーク・プリント・作品・定期考査・課題等提出物内容
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	ワーク・プリント・定期考査・課題等提出物内容
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	ワーク・プリント・実習レポート・課題等提出物内容・作品

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業は、板書を写すだけではなく、説明をよく聞き、新しい知識をメモしたり、自分の意見を書き足したりして知識・理解を深めること。
- 一斉授業やグループ学習では、発表や発言に進んで参加すること。
- 実習などの活動では、班員と協力して計画的に行うこと。
- 実習などの活動では、教員の指示や被服室、調理室の使用方法に従い安全に作業すること。
- 提出物の期限を守ること。忘れ物をしないこと。
- 実習や授業のねらいを理解し、生活に活用させること。
- 定期考査前は、言葉を暗記するだけでなく、自分の家庭生活を振り返り生活と照らし合わせて思考すること。

【家庭学習の進め方】

- ① 課題は丁寧に取り組むこと。その時の発見・気づきを大切にすること。
- ② 授業で習ったこと、自分で実践できることを家庭で積極的に行い復習すること。
- ③ 授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をすること。また、情報を生活に活用させること。
- ④ 社会や地域・家庭生活について関心をもち、気になったことはメモをとり調べる習慣をつけること。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス④情報活用能力×知識技能

- A 目的に応じた衣服の選択「自分らしいコーディネート」自分に似合う色を理解し、T.P.O に合わせた衣服を考えるために情報を得る。
- B 被服製作「生活を豊かにするものの製作」合理的な手順や、上手に縫うコツを調べ、実践する。
- C 持続可能な衣生活「衣生活に関する環境問題」衣生活に関して、社会の現状を見直し、課題を調べる。

【年間指導計画（年間 35 時間）】

週	単元名	主に学習すること	学習のねらい
1	家庭分野ガイダンス	家庭科の授業での心構え	小学校での学びを振り返り、学習の見通しをもち、3年後になりたい自分になるための課題を明らかにする。
2	A 家族・家庭生活 自分の成長と	1. 自分の成長	家族の一員として何ができるのかを考え実践することができる。
3	家族・家庭生活	2. わたしの生活と家族・家庭	さまざまな家族の形を理解する。
4		3. 家族・家庭の基本的な機能	くらしの中のひと、もの、ことの関わりを考える。
5		4. 家族を支える生活	生活の自立と共生をめざす方法を考える。
6	B 衣食住の生活	1.衣服の役割 目的に応じた衣服の着用	衣服と社会生活の関わりを理解する。
7	【衣の生活】	2. 自分に似合う色	自分らしく TPO に合わせた衣服を考える。
8	目的に応じた衣服の選択	3. 自分らしいコーディネート	
9			
10	学習基盤 A	4.和服の文化	和服と洋服の違いを理解する。
11	被服製作	1. 製作の基礎・基本	○製作に必要な材料や縫い方、用具の安全な使い方の理解を図り、その技能を身につける。
12	学習基盤 B		
13			
14			
15		2. 生活を豊かにするものの製作	○合理的な手順を考え製作する。 ○製作に必要な材料や特徴、縫い方、用具の安全な取扱いを習得する。 ○資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた製作計画を作成する。
16			
17			
18			
19			
20			
21	日常着の手入れと保管	1.衣服の手入れ	材料や状態に応じた衣服の手入れや保管の必要性がわかり、適切な手入れができる。
22		2.布の繊維と構成	
23			
24		3. 日常着の手入れ	
25		4.補修や保管・収納	衣服の補修や収納・保管の仕方を習得する。
26	持続可能な衣生活	1.環境に配慮した衣服	衣生活に関する課題を発見し、環境に配慮した衣生活の工夫を考える。
27		2.衣生活に関する環境問題	
28	学習基盤 C		
29	B 衣食住の生活	1.食生活の課題	健康で豊かな食生活の実現に向けて課題を設定する。
30	【食の生活】	2.食事の役割	生活の中で食事が果たす役割を考える。
31		3.健康によい食習慣	食生活を振り返り、健康によい食習慣について考える。
32	中学生に必要な栄養を満たす食事	1.栄養素の種類とはたらき	○中学生の発達と必要な栄養素 ○栄養素のはたらきと種類について理解する。
33			
34		2.6つの基礎食品群と食品群別摂取量のめやす	○食品成分表、6つの基礎食品群、食品群別摂取量の目安について理解する。
35			